

地域おこし協力隊活動実績報告書

隊員氏名： 吉田 宙斗

- ・活動期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日  
(委嘱日：令和元年9月1日)

1. 隊員の活動テーマ

活動テーマ	定住促進 ※共通
より具体的なミッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休耕地を活用した甘藷本格栽培</li> <li>・農産物の販路拡大と特産品開発</li> <li>・収穫量や販売単価の向上など、農業の仕組みづくり</li> <li>・地域おこし協力隊からの新規就農へのモデル構築</li> </ul>

2. 活動の検証

(1) 定住促進への直接的効果

移住等の相談を受けた件数	1件 (1人)
移住希望者に現地案内などの活動を行った件数	1件 (1人)
うち移住につながった(つながる可能性のある)人数	1件 (1人)
具体的な相談の内容	<p>京都市在住の方より、移住及び就農の相談。 2020年4月頃より、ご本人の希望により、農業ボランティアとして受け入れを開始。 南丹市日吉町地域において、地域住民の斡旋による家の紹介を行うなど、地域と一緒にあった移住支援を独自に行う。 現状、希望にマッチングする家は見つかっていないものの、農業に対しては真面目な姿勢で取り組んでおり、兼業農家としては十分やっていける知識レベルもある。 引き続き、家の紹介等を定住促進サポートセンターとも連携して行っていく。</p>

今後の展開や展望または反省点など	<p>2021年9月より、新規認定就農者となり、晴れて正式に農家になる。今後、美山町知井を中心に5ヶ年の計画で100aまで農園を拡げていきたいと考える。</p> <p>また、参農サポートセンターについては自身の任期終了する8月31日まで主体的に関わり、試用期間のデータを取る。</p> <p>試用期間終了後は市と相談し、継続していくのか、そして継続するならどのように継続していくのかを相談していく。</p>
------------------	---

(2) 具体的な活動について

活動を展開した地域数と名称	<p>地域数： 1地域</p> <p>地域の名称：( 美山町知井 )</p>
移住者受け入れや地域振興への意識が高まったと思われる地域数と名称	<p>地域数： 1地域</p> <p>地域の名称：( 美山町知井 )</p>
今後継続的なアプローチにより意識が高まる見込みの地域数と名称	<p>地域数： 1地域</p> <p>地域の名称：( 美山町知井 )</p>

活動内容	現在の課題	期待する成果・展望
美山町甘藷試験栽培	<p>農機の購入</p> <p>優良休耕地の確保</p>	<p>100aまでの規模拡大</p> <p>新規就農者の受け入れ</p> <p>農業ボランティアの受け入れ</p>
日吉町甘藷試験栽培	<p>作付不良</p>	<p>日吉町地域では甘藷栽培が不向きであることが判明する。</p>
参農サポートセンター	<p>試験実施中</p>	<p>南丹市への就農推進。</p> <p>農業に関する相談全般を受ける、一次的な窓口として機能</p>

### 3. 活動表

活動年	実績・効果、目標
1年目	<p>・実績①「地域の理解やつながり作り」            最初期、集落支援員の紹介から、市内における繋がりを増やすことができた。居住地のある上胡麻地域においては積極的に集落の会合やお祭りに参加させていただき、顔と名前を憶えてもらった。            特に京都府農業会議、日吉の農業委員、美山の協力農家とは3年を通し、又、それ以降もお世話になる予定。            新たに、若手農業者集会への参加。京都丹波の農業をもっとよくしていこうという思いを元に、緩やかな株式会社化も視野にいれ、「京都丹波もん」という団体がスタート。            日吉町の農家より紹介いただき、私は露地野菜を中心に協力していくことになった。</p> <p>・実績②「農業活動」            日吉町及び美山町において甘藷の試験栽培及び甘藷苗の試験栽培を行った。</p> <p>・実績③「農育連携」            同志社大学 KCJS 講師より、留学生の受入依頼がある。            農育連携への多大なご理解を頂き、2月～4月までの間、アメリカ人留学生を受け入れ。            コロナによる中断を余儀なくされ、今後の継続については未定。</p>
2年目	<p>・実績①「農業活動」            2021年度においては甘藷農地30a、九条ネギ農地5aほどの作付をした。結果、獣害等に対する抜本的な対策が必要であると判断。            また、甘藷苗についても2021年度から本格栽培と販売を開始。            中間手数料や輸送量を排除した、安価で健康な苗を南丹地域に販売することによって、更に甘藷栽培の振興と水深を行う。            2021年は6500本の販売を達成。</p> <p>・実績②「京都丹波もん」            南丹市の若手農業者が集まり、南丹市の農業を盛り上げようとしているグループに参加。その内、有志数名で一般社団法人化を検討。立ち上げメンバーに参加の上、協力隊としてできることを探った。</p> <p>・実績③「下区地域外ファンづくり事業」            美山町知井下区と共同で京都市内のフリースクールを対象にした、地域外ファンづくり事業を実施。            農園管理者として中心的役割の一端を担った。</p>

<p>3年目</p>	<p>実績①「参農サポートセンターの試験導入」 1月20日～8月30日までの間、南丹市民と移住希望者を対象にした参農サポートセンターを日吉支所で試験導入。 火曜日・木曜日のみの設置で、2022年2月3日現在までに6件の相談を獲得する。</p> <p>目標①「農業活動」 独立就農を果たす。 5年以内に100a規模の甘藷農園を目指していく。 同時に獣害に対する取り組みも行いたい。</p> <p>目標②「参農サポートセンター」の開設 試験実施期間を経て、正式に全国に先駆ける形で参農サポートセンターを設立する。 農業推進課や農業委員会、府の移住コンシェルジュや南丹広域振興局とも連携。</p> <p>目標③「美山町知井新規団体」の設立 地域外ファンづくり事業を下区から知井に裾野を広げ、新規団体の設立を自ら中心になりながら実施していく。 地域外ファンづくりの取り組みを受け継ぎながら、更に知井全体を巻き込みながら活動を行っていく。</p>
<p>任期後に得たい成果・変化(自分自身・地域・関係者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・甘藷普及面積 100a</li> <li>・独立就農</li> <li>・参農サポートセンター相談員として赴任</li> </ul>